

乳幼児期（0歳～3歳）の金融教育は？

～ママFPのひとりごと⑮～

ファイナンシャルプランナー 鈴木さや子

子どものマネー教育の話をする、「お金のことなんて、うちの子まだ小さいからわからないわよ」「早くから教えたら、卑しい子どもになるんじゃないかしら」などと心配される親御さんがいらっしゃいます。もちろん、産まれたばかりの赤ちゃん自身にするべきと話しているのではありません。しかし大きくなってから教える前段階で、教えられることはあります。今月は、赤ちゃん～幼児期の金融教育はどうアプローチすればよいのか、考えてみたいと思います。

わたしは、金融教育論に正解はないと考えています。なぜなら、子どもの性格は千差万別で、算数のように「 $1 + 1 = 2$ 」という明快な解答が得にくいから。ぜひ本コラムを鵜呑みにせず、ご自身のお子さまに合わせたアプローチ方法をとっていただけると嬉しいです。

1. 赤ちゃん時代（0歳～1歳）

0歳児の赤ちゃんに金融教育はさすがにできません。赤ちゃんに教育をするのではなく、親自身がわが身を振り返り、夫婦に必ず存在する、お金に対する考え方や価値観の違いを、話し合い認識することが大切かと思えます。

■親自身のお金の価値観の確認

「あなたにとってお金とは・・・」

「今までに一番満足だったお金の使い道は・・・」

「お金やモノを大切にしていると思う？・・・」

このように、「お金」に対してどのようなイメージを持っているかを、夫婦で話し合うことをおすすめします。また、本コラム7月号でお伝えした「金融教育チェック」のうち、以下のものも夫婦互いにチェックしてみましよう。

- ・紙幣を乱雑に折っていないか
- ・小銭を机に放りっぱなしにしていないか
- ・お財布の中は整理整頓できているか

子どもは赤ちゃんの頃から、親のことを良く見ています。小さいからわからないだろう、と思わずに、常にわが子から見られていることを意識して、お金の扱い方、今一度見直しましょう。

■夫婦での意見交換と方向性統一

我が子に、将来どんな子に育って欲しいか、また、「お金」とどのように付き合っていける子になって欲しいかを、夫婦で話し合う機会を持てるといいですね。

- ・お金と上手に付き合える子にするにはどうすればよい？
- ・何でも買ってあげる親になる？それとも我慢も美德と教えたらい？

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

- ・大学や留学などの学費は出してあげたい？

夫婦と言え、育った環境は異なります。親が何でも出してくれるのが当たり前だった人もいれば、学費は自分で払ったという人もいます。子どもが産まれたら、夫婦でいったん価値観の棚卸をして、互いに伝え合い、方向性をすり合わせましょう。

2. 幼児時代前半（1歳後半～3歳）

子ども自身にアプローチを開始できる年代です。もちろん赤ちゃん時代に行う夫婦間の意見交換は、ずっと続けていきましょう。しつけや教育というのは、金融教育だけに関わらず、ママがやるべき、パパがやるべきというものではなく、2人でやるもの。ここをしっかりとわかっていないと子どもが混乱します。また、「パパに言えば何でも買ってくれるから、ママには内緒にしよう」ということにもなりかねません。

■お金を大切にすることを教えよう

「お金を大切にすること」は金融教育の柱となります。大きくなった時の消費活動・経済活動を円滑に行っていける子になるためには、「お金は生死にかかわる大切なものである」ことを認識しておきたいもの。小さい子どもは、おもちゃとの区別が付きません。親が大事に扱っていることを身体で示しつつ、子どもの動向にも注意を払いましょう。

- ・親の財布を勝手に触らないように教える
- ・お金で遊ぶことをいけないと教える

■モノは降ってくるものではないことを教えよう

産まれてからずっと、お腹が空いたら母乳・ミルクが飲める、おむつが汚れたら誰かが取り替えてくれる、と常に誰かに面倒を見てもらっていたので、最初は「欲求」＝「こたえてくれるもの」と思っていて当たり前。でも言葉が分かるようになったら、少しずつモノがいくらかでも降ってくるものではないことを伝えていきたいですね。

- ・モノは有限であること
- ・モノを手に入れるためにはお金が必要であること
- ・そのお金も有限であること。
- ・お金は働いて得るものであること

親の毅然とした態度は子どもにも伝わります。ダダを捏ねられたらすぐ買ってあげるのではなく、説明することを根気よく続けて、モノ・お金の有限性を身体で感じさせましょう。

「お金の大切さ」「有限性」を教える大切さについて書きましたが、あまりシビアにやり過ぎると、お金を使えない子にもなりかねません。意味のあることには上手に使うことも、親が身を持って行動して、子どもの目に触れさせていけるといいですね。

《今月のお気に入り曲》

交響曲第5番『運命』

／ベートーヴェン作曲

最も有名な曲の1つ。冒頭部分が知られており、効果音としてもよく登場する。冒頭以外も聴きどころが満載で、どの楽章も聴衆を飽きさせない。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—